令和4年度 宮城県公立高等学校 公立高校入試講評

仙台あおば学舎講師陣による公立高校入試講評

出題方針と講評

各教科の出題方針についての県教委の説明と、学習塾「仙台あおば学舎」の講師陣による講評をまとめた。

■国語

第1問では、基礎的な漢字を読む力や書く力、四字熟語や打ち消しの接頭語についての知識をみた。第2問は、漫画家としての生活を諦めた主人公が、生活に再び希望を抱く場面を描いた文章で、登場人物の心情や表現の効果を読み取り、適切に表現する力が問われた。第3問は、読むことと書くことの関係を呼吸のありようになぞらえて述べた文章を素材とし、書き手のものの見方や考え方を的確に捉える力を試した。第4問は、「貞観政要」を用いて古典の基礎的な知識をもとに内容を把握する力などをみた。第5問は、指示語を選んで俳句を創作し、その句で表現することができる情景や心情を書くことで、豊かに発想する力と自分の考えを適切に表現する力を試した。

語彙の内容を重要視

第1問は、昨年度から漢字の読み・書きに関する問題が1問ずつ減り、熟語の問題が追加されている。昨年度から熟語や慣用句等の語彙に関する内容が重要視される傾向にあるため、今後も注意する必要がある。第5問は例年通り200字の作文だった。創作された俳句の一部に入れる指示語を三つの選択肢の中から選んで俳句を完成させる。そのうえで選んだ指示語によってどのような情景や心情を表現できるかを記述するものだ。

自分の考えた情景や心情をはっきりと書けているか、またその理由が明確であるかが採点のポイントとなる。過去数年間、短歌・俳句に関する作文の設問は出題されていなかったため、短歌・俳句の問題を普段から練習していないと戸惑いやすい設問だった。

■数学

第1問は、数と式についての基礎的な知識と計算力、反比例の特徴を理解し、適切に処理する力などを見た。第2問では、円錐（えんすい）の体積を求める力、相似な立体の相似比と体積比の関係から立体の体積の比を求める力などを試した。

第3問では、ショッピングモールで企画したイベントを素材とし、起こり得る場合を順序よく整理し考察する力、イルミネーションを点灯させる時間と消費する電力量の関係を式やグラフに表現する力、変わる二つの数量の関係を論理的に考察し処理する力を試した。

第4問では、三平方の定理を用いて線分の長さを求める力、半円の弧に対する円周角の性質を用いて二つの三角形が相似であることを証明する力などをみた。

論理的な力試される

第2問の方程式の問題は1次方程式でも連立方程式でも解ける。図形問題も相似の立体図形から体積比を求めることもできるが、実際の体積を計算することで求めることも可能だ。

第3問では、題意を満たす場合を考えて求める以外にも、樹形図から根気強く数えることもできる問題だった。関数の問題に関しても、グラフを描いて解くこともできるが、方程式的な考え方で解くこともできた。

模範解答的な解き方にこだわるのではなく、様々な視点から問題を捉えることを重要視している。演習量で乗り越えられるような基本的な出題が多く、平均点は上がると推測される。問題を柔軟に捉え、論理的に考える力が試される内容だった。

■社会

地理、歴史や公民に関する知識、調査や資料から情報を読み取りまとめる技能、社会的事象などの意味や相互関係について多面的に考察し、表現する力をみることを狙いとした。

第1問は、「民主政治の成り立ち」を題材とし、民主政治の来歴と基本となる考え方に関する知識と資料をもとに考察する力をみた。第2問は「九州地方の農業」、第3問は「みそとしょうゆの歴史」を通して、古代～近世の歴史に関する知識などについて試した。第4問は「科学技術の発展と社会の変化」、第5問は「南アメリカ州の人々の生活と文化」を取り上げた。第6問では「国際問題と日本の国際貢献」をテーマに市民参加による日本の国際貢献のあり方を考えさせた。

人物名など知識必要

第1問では、「民主政治の成り立ち」について出題された。ここ数年、第1問は「地理」から出題されていたため出ばなをくじかれた感があった。

第4問の「科学技術の発展と社会の変化」は、現代らしい問題だった。情報通信技術（ICT）やオンライン診療などに触れ、歴史だけでなく時事の知識が必要となった。

解答には知識及び歴史の流れの把握が必要で、地名や基本的人権に関する問題などよく目にするような問いでも、安易に答えることが難しい。人物名と出身地など、プラスの知識が必要だったと感じる。

全体としては問題数が5から6題に増えたが、第2問以降は例年通りの形式で5問ずつ出題されている。全体を通して、昨年よりも問題文を読み解く力が必要とされた。

■英語

第1問は、絵を見ながら英語を聞き、内容を理解する力、会話の流れに沿って適切に応答する力をみた。第2問は、短い会話を通して基本的な文法や語法に関する知識、語彙力や基本的な英文を構成する力をみた。第3問は、中学生が感情をノートに書くことで得た気づきについて述べたスピーチが題材。英文の内容を正確に読み取り、要旨を的確に捉える力を試した。

第4問と第5問では、書き手が伝えようとする内容を読み取る力や、相手に伝わる英語で適切に表現する力をみた。第4問は、3人の職業人が中高生に自分の仕事を紹介した英文を例に。第5問は交換留学生のための歓迎会の内容で交わされる会話を取り上げた。

読書量 問われ始める

第3問の長文は、悩みの解決法としてノートに一度思いを書き出し、気持ちを整理するという内容。英文として難しくはないが、日常のトピックとして知らない生徒は、英語で内容を読んでも理解が及ばないかもしれない。

近年は長文で環境問題が取り上げられるなど英単語だけでなく、そうした話題に触れたことがあるかどうかが問われる問題が増えている。「留学生に日本文化の良さをしってもらう」というパターン化された話題は古くなったのだろう。

出題傾向、文量、難易度ともに昨年とほぼ同じで、学力中～上位の生徒にとっては非常に得点しやすい問題だった。大学受験と同様に、小学生からの読書量（国語力）が問われ始めている。

■理科

自然の事物や現象についての知識、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能や観察を通して科学的に思考・判断・表現する力をみることを狙いとした。

第1問は、ヒトの血液循環の働き、火山活動と火山災害などを素材として、身近な自然の現象に関する規則性や関係性を表現する力をみた。第2問は、植物の光合成と呼吸の働きに関する実験を取り上げ、第3問では太陽の日周運動の経路を調べる観察を通して、季節変化と地軸の傾きとの関係を問うた。第4問は、ばねに加わる力とばねののびとの関係を調べる実験から、第5問では、塩化バリウム水溶液と硫酸の反応に関する実験を用いて、現象の規則性について思考する力を試した。

現象・実験 本質理解を

第2問では、仮説をもとにした実験結果の予想や対照実験を成立させるための条件、そのときの結果の想定が問われた。第3問では、地軸の傾きが変わった場合、太陽の動きがどうなるかを考える問題。地軸の傾きが変わることを考えたことがある受験生はごくわずかだろう。考えたことがない状況について、知識をもとに考察し、結果を予測する力が試された。第4問では、おもりとバネに働く力に関する問題。実験結果を参考にして、条件を満たす状況を考察する必要がある。

各大問で問われたのは、未知の実験や状況を、知識や既知の実験から考察・予想をする能力である。例年の知識や考察力に加え、現象や実験の本質を理解し、それを応用する力も必要になった。

競争倍率が最も高かったのは、宮城一の国際探求科・理数探求科の1・75倍。次に泉の普通科で1・64倍、宮城野の1・62倍が続いた。合格発表は十六日の午後三時に各学校で行われる。受験できなかった生徒向けの追試験は十日に実施される。

今年も仙台あおば学舎講師による

公立高校入試の講評が読売新聞に掲載されました

2022年（令和4年）3月5日（土）
讀賣新聞